

2. 取組内容の進捗状況(平成29年度)

【東京外国語大学】

【事業の名称】(選定年度28年度・(タイプB ASEAN))

日本発信力強化に貢献するミャンマー・ラオス・カンボジア知日人材養成プログラム

■ 交流プログラムの実施状況

- ・短期Joint Education Program、交換による長期留学及び大学院レベルの交換の3つのプログラムにおいて学生の派遣及び受入を計画どおり実施した。
- ・派遣学生は、各国言語を学んだほか、ミャンマー・ラオス・カンボジアへの理解を深め、日本語学科における補助などの活動を行った。
- ・受入学生は、本学でそれぞれの言語を学ぶ学生とのタンデム学習のほか、日本語及び日本文化関連科目の授業を履修することで日本語・日本文化についての知識を深めた。

■ 交流プログラムにおける学生のモビリティ

○ 日本人学生の派遣

- ・短期Joint Education Programの派遣では、2週間から3週間、各国言語を学んだり、各言語での授業を履修したほか、各国それぞれにおいて特色ある社会、文化を体験するプログラムに参加し、それぞれの文化についての理解と、言語力を向上させた。
- ・交換による長期留学の派遣では、各言語での授業を履修するほか、日本語教育に関する協力活動を行い、現地で日本語を学ぶ学生の日本語能力向上に貢献することができた。
- ・大学院レベルの交換では、本学大学院生のリサーチ目的の留学を支援する、Joint Education Programにより、ヤンゴン大学に2名、王立プノンベン大学に1名の学生を派遣した。また、ヤンゴン大学には、本学Global Japan Officeが提供する日本語教室の補助教員として、大学院生1名が派遣され、これにより、大学院レベルの交換システムの構築につながった。

○ 外国人留学生の受入

- ・短期Joint Education Programの受入では、9日～23日間学生を受入れ、本学でそれぞれの言語を学ぶ学生とのタンデム学習、日本語の集中講義や日本文化体験学習などの機会を提供し、知日人材の養成の基礎作りを行った。
- ・交換による長期留学の受入では、日本語及び日本文化関連科目の授業を履修することで日本語・日本文化についての知識を深めた。
- ・ヤンゴン大学学生がトヨタ工機でのインターシップを、ラオス国立大学学生が近隣の小学校においてボランティア活動を、王立プノンベン大学の学生が武蔵野市国際交流協会を通じたホストファミリーとの交流を行った。
- ・長期受入学生の8名中2名が博士課程での日本留学を希望し、学修意欲の向上が確認された。

■ 質の保証を伴った大学間交流の枠組形成に向けた取組

- ・ASEAN+3の枠組みの浸透や連携大学による協力体制の構築など連携大学への確認事項を取り纏め、12月から3月の短期Joint Education Program(派遣)に合わせて、ヤンゴン大学、王立プノンベン大学及びラオス国立大学を本学教職員が訪問し、関係教員とこれら確認事項について協議した。
- ・受入学生が本学で認定した単位について、帰国後に単位認定されたかを調査し、ラオス国立大学及び王立プノンベン大学では単位認定されたことを確認した。
- ・派遣学生の留学前・留学後に実施した言語力についてのCEFR-Jによる自己診断では、特に聴解、会話力の伸びが認められた。

■ 外国人学生の受入及び日本人学生の派遣のための環境整備

- ・本年度から、新たに受入学生全員がホームビジットを行い、日本人や日本文化の理解に役立ったとのフィードバックがあった。
- ・2月にカンボジアにおける、TUFSAソシエイツとの会合や、3月にラオスにおいて、TUFSGローバルコミュニティ会合を開催し、本学教職員や現地で活躍する卒業生、もと留学生と情報交換し、派遣学生たちが今後の学究生活の刺激を享受した。

■ 事業の実施に伴う大学の国際化の状況、情報の公開、成果の普及

- ・本事業のWebページにおいて、交流プログラムの実施状況を随時発信(年度中34回)したほか、ラオスやカンボジアの教育制度について各国教員が調査した内容を掲載し情報提供した。

■ グッドプラクティス等

- ・派遣学生が、現地のスピーチコンテストに出場し、奨励賞を受賞した(ラオス)。また、日本人材開発センターで日本語を学ぶ現地の方々のサポート(カンボジア)をするといった経験などから、語学力や異文化理解の向上に加え、現地で働く意欲の高まりや、知識の深長を成果として上げる学生が多く見られた。
- ・短期Joint Education Programの受入学生のプログラム実施後アンケートにおいて、8割の学生が日本語を聞く力、日本語でのコミュニケーション能力について伸びたと感じていること、また、16名の参加者全員が今後さらに長期の日本留学プログラムに参加したいと回答し、学修意欲の向上が確認できた。



ヤンゴン大学からの受入
(短期Joint Education Program 開講式)

<タイプB>	H29					実績	計画
	プログラム	ミャンマー	ラオス	カンボジア			
学生の派遣	短期	9	9	4	34	32	
	長期	3	3	2			
	大学院	3	0	1			
学生の受入	短期	5	5	6	24	22	
	長期	3	3	2			
	大学院	0	0	0			



王立プノンベン大学からの受入
(小学校での文化交流)